

氏名	星野 純子	部署	看護学科	職名	講師
研究分野	在宅看護学、緩和ケア				
学位	学士(看護学)				
学歴					
経歴	2005年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、06年埼玉県立大学地域産学連携センター認定看護師教育課程(緩和ケアコース)専任教員兼務				
所属学会(役職)	日本緩和医療学会、日本在宅ケア学会、日本がん看護学会、日本看護科学学会、日本看護教育学会、日本看護管理学会、日本在宅看護学会				

【2016年度実績】

1. 研究業績					
著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月	
(1) 著作					
1 該当なし					
(2) 論文					
1 該当なし					
(3) 学会発表					
1 在宅緩和ケアを実践する訪問看護師がもつ教育ニーズ	共著	第31回 日本がん看護学会高知市	○星野純子、筑後幸恵	2017.2	
2 埼玉県在宅を支える認定看護会の活動報告	共著	第24回日本ホスピス・在宅ケア研究会in久留米	○大沢岸子、星野純子(他2名)	2017.2	
(4) その他					
1 該当なし					
2. 競争的資金等の研究					
競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間	
1 文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金(基盤研究C)	地域包括緩和ケアの充実に向けた家族への教育支援プログラムの開発(研究代表者)			2016. 4～	
2 埼玉県委託事業(看護系大学と連携した健康人財育成事業)	住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きるための支え合い健康教育～デリバリー型緩和ケアスクール・サロンを活用して～(研究分担者)			2016.4～2017.3	
3. 教育業績					
講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)			
(1) 講義					
1 在宅看護学	2016.4～8	地域包括ケアを担う看護職としての基礎的知識や援助姿勢、看護過程展開について教授した。特に、訪問看護のイメージがわくよう、事例を盛り込むなど工夫した。			
2 リハビリテーション看護	2016.10	終末期患者を対象とした緩和リハビリテーションについて、イメージがわくように事例を活用した。			
3 がん看護	2016.10	主に緩和ケアを受ける患者の症状マネジメントについて教授した。特に、患者主体の症状マネジメントの原則がわかるよう、実習での体験などを想起させるなど工夫した。			
4 スタートアップセミナー	2016.4～8	1年生の初學者教育として、学生がPBLを体験できるようガイドを作成した。			
5 緩和ケア総論	2016.9～10	緩和ケア認定看護師を目指す受講生が自身の「緩和ケアの原点」を認識できること、さらには共有できるよう、発表の機会を設けた。			
6 症状マネジメント総論	2016.9～10	緩和ケア認定看護師を目指す受講生が、症状緩和の基本である患者主体の症状マネジメント理論が理解できるよう、事例を活用した。			
7 喪失・悲嘆・死別	2016.10	緩和ケアを受ける患者・家族の喪失体験を理解できるよう、基礎的な知識を教授した。さらに、近年課題となっている若年がん患者の増加に伴う遺される子どもや老親にも意識が志向できるよう工夫した。			
8 緩和ケアにおける家族ケア	2016.11～12	緩和ケアを目指す受講生たちが、ケアの対象である家族をとらえ、家族の持つ強みを活かしたケアを展開できるよう教授した。			
9 相談(コンサルテーション)	2016.12	緩和ケア認定看護師コースの受講生30名に対し、コンサルテーション計画が立案できるように事例を用いて教授した。			
(2) 演習					
1 症状マネジメント演習	2016.10～12	緩和ケア認定看護師として、全人的・包括的なアセスメントができるよう、事例を用いて看護過程の展開演習を行った。			

2	総合演習	2016.10～12	緩和ケア認定看護師に期待されるコミュニケーションスキルの獲得のため、自己の傾向を認識できるよう、模擬患者を活用した演習を行った。	
3	ケースセミナー演習	2017.2～3	14名の受講生を担当し、6週間の実習の学びをケースセミナーとしてまとめられるよう、個別指導を行った。さらに、受講生同士がサポートしあえる環境を整えることで、14名全員が発表までできた。	
(3) 実習				
1	公衆衛生看護学実習	2016.5～7	40名選択制に工夫した。なつて、はじめての実習であることから、より保健師像がつかめるよう指導者との連携・調整に努めるとともに、カンファレンスを工夫した。	
2	総合実習	2016.7～8	在宅領域を希望する4年次4名の学生に対し、自己の目標が達成できるよう訪問看護ステーションや地域包括支援センターを選定し、学びをサポートした。	
3	認定看護実習	2017.1～2	15名の受講生を担当し、緩和ケア病棟・緩和ケアチーム・訪問看護ステーションで6週間の臨地実習指導を行った。チームの奏で認定看護師としての役割を果たせるよう、支援した。	
(4) 論文指導				
1	学士課程：卒業研究	2016.4～2017.1	主指導：2名	
(5) その他				
1	認定看護師教育課程の受講生および修了生への相談指導	2016.4～2017.3	30名のうち、15名を担当し、随時面談しながら短期間の研修が実りあるようにサポートした。また、修了生に対しては、認定活動のサポートとして、研修内容のアドバイス・精神的支援・研究指導を行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	在宅看護論実習の展開	2016.6
2	訪問看護研修ステップⅠ	埼玉県看護協会	訪問看護の対象者の理解	2016.9
3	特定講座	日本医業経営コンサルタント協会	その人らしさを大切にしたい看護支援	2017.3
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	埼玉県看護協会	地区理事	2016.5～現在	
2	埼玉県在宅を支える認定看護師会	顧問	2011.4～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)				
1	認定看護師教育課程専門部会 委員			
2	看護学科カリキュラム運営検討会			
3	看護学科実習計画調整会			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			